

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	12-108	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and major depression in the general population: the critical importance of dependence. 一般集団におけるアルコール消費と大抑うつ状態		
執筆者		
Bulloch A, Lavorato D, Williams J, Patten S.		
掲載誌		
Depress Anxiety. 2012 Dec;29(12):1058-64.		
キーワード		
アルコール消費、抑うつ状態、アルコール依存、一般集団		
要 旨		
目的： 物質乱用と大抑うつ状態は、しばしば同時に発生する。アルコール消費は抑うつ状態の病因に関与するかもしれないし、また逆に抑うつ状態がアルコール消費の病因に関与するかもしれない。この研究は、カナダにおいて12年以上のフォローアップ期間を有する大規模コホート集団である National Population Health Survey (NPHS)を用いて、飲酒の様々なパターンと大抑うつ状態の発症の関連、大抑うつ状態の有無とアルコール乱用の発症の関連を評価した。		
方法： 1944に開始された縦断的調査であるNPHSを使用し、対象集団に対して年に2回のインタビューを実施した。大抑うつ状態(MDE)はCIDI-SFMDを用いて評価し、アルコール依存は、CIDI-SFMDを使用して評価した。アルコール消費量、ガイドラインを超える中等度の飲酒量、大量飲酒も評価された。分析には、ロジスティック回帰と比例ハザードモデルを用いて、これらの2つの因子の縦断での関係性を評価した。		
結果： アルコール依存を有している者は、大抑うつ状態の高いリスクであった。しかし、中等度の飲酒のガイドラインを超える飲酒方法と一過性の大量飲酒の飲酒方法はMDEのリスクではなかった。MDEを有している者はアルコール消費の増加は明らかではなかった。しかし、アルコール依存のリスクは、うつ状態の男性においては上昇した。		
結論： 臨床的には、アルコール依存とMDEの双方向性な関係は重要であった。飲酒とMDEの関係は、アルコール依存症のみで認められた。アルコール依存は、MDEのリスクを増加させた。そして、MDEは、男性のみでアルコール依存のリスクを増加させた。		